



さいたま市立宮原小学校 学校だより



令和 6年11月29日 第9号

学校教育目標 心身ともに健やかで主体的に生きる子どもの育成

・たがいに努める子（やる気） ・たがいにきたえる子（元気） ・たがいに手をとる子（勇気）

恕

井上 雅史

2学期が始まった頃の猛暑続きがどこへ行ったのか、寒い日が続いています。今年は秋がなかったなどともいわれますが、11月の半ばに6年生の修学旅行で訪れた日光では見事な紅葉に出会うことができました。町ではハロウィンからクリスマスへと装飾が変わり行き、気温の低下と併せて、季節が確実に移っていることを実感しています。2学期も残すところあとわずかとなりました。ここまで、保護者の皆様、地域の皆様には、本校の教育活動にご理解をいただき、そして子どもたちを温かく優しく見守っていただき、誠にありがとうございました。

さて、論語に次のような一説があります。

子貢(しこう)問うて曰(いは)く、一言(ひとこと)にして以(も)って身を終るまで之(これ)を行(おこな)う可(べ)き者有(あ)り乎(か)。

子(し)曰(いは)く、其(そ)れ恕(じょ)か。己(おのれ)の欲(ほ)せざる所(ところ)を、人に施(ほ)どこ)すこと勿(な)かれ。(衛霊公二四)

(訳)：子貢がたずねた。「人間として一生貫き通すために大切なことを一つの言葉で表す言葉がありますか」孔子は「それは『恕』ではないかな。自分が人からされたくないことは、他人に対して決して行ってはならない」と答えた。

「恕」とは人に対しての思いやりの心のことです。相手の立場を自分自身に置き換えて相手を思いやる感覚とも言えます。ここでは「他者への感謝を感じ、他の者に対して気遣い、不愉快な気持ちにさせない、そういった心配りがとても大切である。」と孔子は説いているのだそうです。

人は、社会の中で大勢の人とお互いに助け合い、迷惑を掛け合いながら生活しています。自分が直接知っている人だけでなく、沢山の名も知らない何処かの誰かとも関わり合って、今の生活が成り立っています。しかし、デジタル技術の発展とともに、人と人とのかかわり方は大きく変化してきました。だからこそ、人とのつながり・人とのかかわりについてしっかりと考え、大切にしていかなければいけないのだと思います。

本校では、保護者の皆様や地域の皆様など、日頃温かく見守っていただいていることへの感謝の気持ちを表すため、11月26日に「ありがとう集会」を行いました。その会の最後に「心の中で思っているだけでなく、きちんと言葉や態度に表して相手に伝えることを大事にしてほしい」と私から子どもたちへ伝えたのですが、そう私が言う前に、子どもたちは感謝の言葉やお手紙、歌をお送りし、感謝の気持ちを精一杯表現していました。参加してくださったボランティアの方は、帰り際に「今日は来てよかった」と笑顔でおっしゃってくださいました。

この先の未来は、様々な変化や課題が子どもたちの前に現れることが予想できます。それら乗り越えるには一人の力では難しいでしょう。だからこそ、様々な人と力を合わせていくことが、今後益々大切になってくるはずです。そのためには、思いを表現し伝える力も、とても大事な力になってくると思います。未来に生きる子どもたちが豊かに生きるために必要な力を育むために、今後も一人ひとりの子どもたちに丁寧にかかわってまいります。

～あいさつの言葉交わしていますか～「おはよう・おやすみなさい」「いってきます・いってらっしゃい」「ただいま・おかえりなさい」